

超硬丸鋸切断機を増設

切断品加工品小ロット・短納期対応強化

各種鋼管の在庫販売および加工・超精密金属属管製造を手掛ける東成鋼管（本社・東京都中央区、社長・岡部耕喜氏）は、

密金属管製造需要が増えている切断品・加工品の小ロット短納期対応を強化する。

精度や鋸刃寿命を向上



今回増設したのは、タケタ機械の定寸装置付超硬丸鋸切断機「CS-110 OA II」写真。高剛性本体フレーム構造による安定した高速切断機で、ワークの種類によって超硬刃とハイス刃を使い

させている。丸パイプで口径25〜101・6ミ、角形鋼管25〜75角、長さ1千〜6千ミまで対応。東成鋼管では、個別バイス減圧装置とチップコンベアをオプションで付けている。今月から本稼働を開始した。

古河事業所は特約店事業としてガス管や角形鋼管など一般管の在庫・加工販売、伸管加工エメーカーとして冷間3ロール圧延加工による高精度の超精密管・特殊管加工、ドローパーチ（冷間引抜機）を利用した小径サイズ中心の伸線加工を手掛ける。直近では超精密金属属管・特殊金属加工の機能強化を行ってきた。

今回の増設で一般管を中心に増えている小ロット、短納期、切りそろえのニーズに細かく対応し、拡販を図る。

